

高 校

東京学芸大附属国際中等教育学校

高校生の選挙や政治への関心を高めよう
と、Instagram(インスタグラム)を活用した主権者教育の実践が注目を集めて

映える「選挙フォト」作成

4月からの成年年齢の引き下げや「公共」が必修科目となることを受け、主権者教育の重要性が高まっている。

今回の取り組みを指導したのは、公民科の楊田龍明教諭。主権者教育にインスタを取り入れるきっかけとなったのは、若者世代に人気のクリエイターのkemioさんが執筆したエッセイ。「投票所にインスタ映える写真撮る場所があれば、若者ももっと投票に行くのではないか」という問題提起からヒントを得た。

4年生の「現代社会」の授業では、「選挙フォト」の作成を夏休みの課題とした。まずは生徒に家族や先輩など身近な人たちへのインタビューを行わせた。「自分が投票しなくても政治に影響はないと思うから選挙に行かない人をどう思いますか?」などの質問を聞き取らせ、その内容を発表させた。

また生徒は「#選挙行こう」「#Ivoted」などで検索しながら、参考にできる写真を探し、「選挙フォト」を作成。その写真に添える文章を考えた。

主権者教育に「インスタ」を活用

ラテアートやステッカーで投票促す

アイデア実現、社会参画を実感

約100人の生徒たちが考えた「選挙フォト」を全員で回収。生徒一人当たり2票を与えて投票を行い、優秀作品を選んだ。「FOR OUR PEACE」選挙で、授業では、生徒たちの関



Instagramで宣伝された選挙ラテアートの投稿では100件以上の「いいね」が付いた

この「選挙フォト」の授業と並行し、6年生の学校設定科目「憲法と人権」では、「インスタを活用して投票所に行きたくなる仕掛けを考えよう」と呼び掛けた。楊田教諭は、取り組みを充実させようと同区選管を訪れて協力を依頼した。選管の担当者も生徒たちが3回にわたりにZoomで打ち合わせを行った。

生徒たちからは「高校生がインスタで検索するのは選挙ではなくカフェが多い。投票を表現したラテアートがあればインスタで投稿しやすくなると思う」「投票済証明書も、かわいいデザインにしませんか?」かわいいういステッカーをもらえたら、インスタに投稿したくなると思う」などのアイデアを伝えた。高校生目線のアイデアは、同区選管の協力を得て実現した。

ある生徒は練馬区の「馬」の文字にちなんだイラストと「センキョ」「VOTED」の文字が浮かび上がるラテアートを考案した。区内のカフェに協力を依頼し、選挙期間中に特別価格で販売してもらうことに成功した。

別の生徒は「友達と一緒に投票所へ行くきっかけをつくりたい」との思いを込めて、「投」「票」「済」と一字ずつ書かれたステッカーをデザイン。同区選管の担当者が期日前投票所で配布し、インスタなどで注

意を伝えることができる平和な社会を守りたい。と訴え、投票に行こう。」と訴えた作品が最も多くの票を集めた。

NOTE FOR OUR PEACE. I JUST WANT TO MEANINGFUL VOTE. I WANT TO MEANINGFUL VOTE. I WANT TO MEANINGFUL VOTE.

心の高まりをテコに選挙制度や公職選挙法を学習し、動画「若者は選挙に行かないと損をする話」(制作:たかまつななチャンネル)を見せ、主権者としての在り方を考えさせた。生徒たちは「家族と選挙についてしっかり話すのは初めてでした。選挙権を持った大人の意見を聞くのは興味深かった」「選挙フォトを考え

ている時間が楽しく、皆の作品にも感動した。政治もこのように楽しみながら関心を持てる若者も参加しやすくなると思った」と感想にこぼっていた。

楊田教諭は「自分たちのアイデアが現実形に形になれば、社会参画している実感につながる。選挙への関心を高め、主権者意識を育成できる」と語った。

今年7月の参議院議員選挙では、同区選管と協力し「ちょっと政治を憂えてみよ。」と題して、インスタでの選挙ステッカーデザインコンテストを予定している。

東京学芸大学附属国際中等教育学校 03-5905-1326

